

発言(要旨) つづき

大谷浩一中央委員 県高支部

署名をお願いする際に「家族分も含めて」という点については丁寧に組みたい。



伊藤敬二特別中央委員 障教組

ナチス・ドイツやかつての日本がそうだったように、戦時下という、命が軽く扱われる特別な状況では、障害者は真っ先にその犠牲になる。そういう意味で障教組としても「戦争法」廃止については特別な、創意工夫ある取り組みを強めたい。

第1号議案討論

宮本徹中央委員 但馬支部

年をまたいだが、総要求運動のまとめとして、支部の要求書を完成させた。HR教室以外にもエアコンを設置して欲しいという声は保護者にとっても強い要求だし、そのような要求を汲み上げていくことが拡大にもつなげていける。

岡本匡史中央委員 東播支部

支部執行委員会で拡大リーフレットの活用状況を数で確認しようと努力している。やはり、まずは声を掛けることが一番大切で、支部全体としてもっと意識的に取り組みを強めたい。

朽尾一三中央委員 尼崎支部

人事評価育成システムの問題点を浮き彫りにするために、数年来、苦情申し立てをし続けてきたが、県の対応はこの間ずっと不誠実なものだった。今後もこのような取り組みを引き継いでいただきたい。

上島一宏中央委員 北播支部

3カ所での成人式を回って宣伝行動を行った。若者の中にも「不景気だから戦争賛成」という声があり驚いた。もっともっと対話が必要だ。



藤本慎司中央委員 西播支部

いつもは署名に前向きでない人でも、これだけはやらなければならないという声があがっている。今までとは違う「特別な取り組み」が必要だ。



松下利明中央委員 淡路支部

淡路でも成人式会場での宣伝に取り組んだ。若者達の中に、この問題をしっかり考えている層がいることは間違いない。もっと知らせていくことが大切だ。



藤本慎司中央委員 西播支部

支部の「ニューイヤーパーティ」で「18歳選挙権と主権者教育」の学習会を予定している。教師として教科の内容以外にも高校生に何を伝えるべきかということを変更して問い直すことが大切だと思っている。

島津茂久中央委員 神戸市高

定員・予算交渉を通して、職場の声を丁寧に聞き取ってすぐに動く姿勢を見せる、という「見える組合活動」を心がけている。

伊藤敬二特別中央委員 障教組

退職までに一人は拡大したい。初任者はちゃんと話を聞いてくれるので、しっかり声を掛けることが大切。全教共済も対話のいいきっかけに出来る。

兵庫県教育研究集会 報告

講演 アベノミクスと戦争法

浜 矩子さん 同志社大学大学院教授

「アホノミクス」の目的

アベノミクスのことを「アホノミクス」と呼んでいるが、安倍首相は米で「アベノミクスと外交安全保障は表裏一体」と発言。質問に答え「GDPが増えれば防衛費を増やせる」と言った。つまり、「富国強兵」が目的だ。「戦後レジームからの脱却」を掲げる安倍首相は、戦前の日本帝国主義をめざしている。

「アホノミクス」第2ステージ

・「できもしないことをきれいな言葉で言っているだけ」という批判だけでは危険。

・GDP600兆円は今の2割増。GDP増→軍事費増をめざしている。

・1億総活躍社会は、GDPを増やすために死ぬまで働けということか。

・希望出生率1.4%→1.8%は、戦前の「産めよ増やせよ」。

TPPはTYP

・「TPP」の正体は、T(とつても) Y(やばい) P(パートナーシップ)

・安倍首相は米で「TPPの戦略的価値は驚異的」と発言。戦前、ナチスを始め英仏も戦略的野望を持って経済的連携関係を乱用し戦争に繋がっていった反省から、戦後、自由・無差別・互惠を

三原則にしたWTO

が発足した。TPP

型の貿易はWTOの

3つの理念に反

しているが、安

倍首相はそれを

「驚異的」と評

し、禁断の方向

に踏み込んでい

こうとしている。

TPPと

戦争法も表裏一

体だ。

我々が身につ

けておくべき認

識と3つの道具

……アホノミ

クスを乗り越え

るために大切な

こと

①1つの原点回

帰……人間を幸

せにしてこそ経

済活動の名に値

するという認識

。人を不幸にする

経済活動など、あ

ってはならない。

②1つのバランス

感覚……「心の

欲するところに



文化行事

尼崎双星高等学校 書道部/パフォーマンス



とてもわかりやすく、ていねいにお話し下さったので良かったです。話術にも引き込まれました。「なんとなく危ない」と思っていたアベノミクスを、論理的に考え、歴史に学び、良い勉強になりました。
(20代女性 教職員)

感想文より

大変良かったです。素晴らしいかったです。力強い文字の中に、生徒の皆さんのエネルギーを感じました。文字の言葉に含まれる思いが、ぐんと伝わってきました。感動で涙が出てきた暗いです。生徒の皆さんからいただいた元気や勇気が明日からの活力になりそうです。若い、いいですね!
(50代女性 教職員)

障害児教育

☆全体会 「どこでも行きますバンド(神戸大学附属特別支援学校)」の歌と演奏

☆学習講座1

キミヤーズ塾主宰の村上公也先生(元京都市支援学級担任)による「笑顔、考える、つながる授業づくり～目からウロコの教材・教具～」では教育実践の基本単位は、授業、授業が良ければOK、授業が一番大事、授業は量より質だ、ということで、様々な工夫を話してくださいました。

☆学習講座2

平生尚之先生(ひょうご発達支援センター クローバー 加西ブランチャ 主任相談員)による「発達障害の理解と対応～思春期、青年期までを見通して大事にしたいこと～」では発達障害の方の思春期・青年期の学習、生活、友だち、恋愛関係等の問題についての具体的な相談事例をもとにどのような支援が大切か話してくださいました。

第185回中央委員会 特集号 平和・教育・そして生活を守るために 今こそ行動を起こそう！

1月30日、高教組会館にて第185回中央委員会が開かれ、全ての議案が全会一致で議決されました。討論の中では出席した中央委員の中からのべ20名の発言があり、2000万署名への積極的な取り組みや署名への決意が各支部から出されました。そして、組織建設3か年計画のもと、高教組をひとまわりもふたまわりも大きくし、「教え子を再び戦場へ送らない」ために、団結して奮闘することを確認しました。

中央執行委員長あいさつ 小野 泰司

本中央委員会は、11月に行われた確定交渉での高教組としての判断を確定することと春闘期の取り組みを決定すること、また戦争法廃止に向けてどのように「2000万署名」を中心とした取り組みを旺盛に進めていくのか、そして「組織建設3か年計画」をどう実りあるものにしていくのか等々、とても大切な課題を抱えた中央委員会となります。



確定交渉においては一定の成果と課題がありました。大きな成果のひとつは介助員の65歳までの雇用が実現したことです。確定交渉が終わったその日に、介助員さん同士、メールなどで成果を共有し、その結果、3名の組合加入がありました。まさに労働組合。本当に見習わなければならないと感じました。高教組全体としての組織拡大も、確定後9週間で9名の組合員加入があり、うち二人は新採用者でした。この流れに皆さんの力を合わせて弾みをつけていきましょう。

さて、昨年9月19日に戦争法が強行採決されたあと、日本がいったいどこへ向かっていくのか、どんな社会となっていくのか、憲法や民主主義、立憲主義はどうなってしまうのか、そんなことを自分の問題としてとらえるようになりました。沖縄の辺野古では、警視庁機動隊による力ずくの住民排除が続けられています。また、メディアの世界では、大新聞が権力の片棒を担いで、政府を批判するニュースキャスターの個人攻撃をする新聞意見広告を平気で載せるというようなことが、まかり通っています。そして、アベノミクスの成果としての「デフレ脱却」などと喧伝しながら、その一方でアベノミクスの破綻を証明する日銀によるマイナス金利政策を行う始末。国会では、パフォーマンスに終始し、人を食ったような挑発的な答弁を繰り返し、憲法と国民を愚弄する安倍首相の姿には、本当に「アベ政治を許さない」と感じます。

その「アベ政治」の結果、資本金10億円以上の大企業の内部留保は301.6兆円にも膨れあがりました。にもかかわらず、法人税を切り下げ、2016年度予算の法人税は12兆2330億円で1989年予算24兆9000億円の半分にまでなっています。また、国民一人あたりのGDPはOECD諸国34カ国中、過去最低の20位。1996年が3位だったことを考えると、いかに経済政策がゆがんでいるかがわかります。一方、非正規社員の割合は4割に達し、ワーキングプアは1139万人、2年間で49万人も増加しています。さらに貯蓄なし世帯は30.9%で、全世帯の1/3にもなりました。こんな社会を本当に子どもたちに引き渡していいのか、そのことが、今、大きく問われていると思います。

年末に講座でお話いただいたSEALDs KANSAIの寺田ともかさんは、自分で考え、主張し、行動できるようになったのは、「受けてきた教育によるところが大きい」と自己分析しました。また、北海道の札幌青年ユニオンの女性は、学生時代に一番身近にいる大人である学校の先生には、その働き方を見た子どもたちが将来社会に出た時に「長時間労働や残業代が出ないことが当たり前で仕方のないこと」と思わせないで欲しいと訴えています。一人ひとりが大切にされる社会を実現していくために、主権者教育の大切さとわたしたち自身の主権者としての有り様の大切さが身にしみます。

先日の教研集会での尼崎双星高校の書道パフォーマンスは本当に感動しました。文字そのものだけではなく、その周りにたくさんついていて、いろんな色、いろんな形をした足形、その足形にみずみずしいのちの輝きを感じ、胸が打たれました。そして、彼ら彼女らが書いた「生きてんのがすばらしい」という文字。本当に「生きてんのがすばらしい」と生徒たち一人ひとりが思い続けられる社会、そんな社会をともに主権者として作っていくことが、とりわけ教職員組合には求められているのだと思います。

今、「アベ政治」を変えていくために「教え子を再び戦場に送らない」ために、何ができるのかみんなで考えていきましょう。



発行所
神戸市中央区北長狭通5-2-10
兵庫県高等学校教職員組合
TEL 神戸(341)6745~6747
E-mail
honbu@hyogo-kokyoso.com
http://www.hyogo-kokyoso.com
発行人 兵庫県高等学校教
職員組合中央執行委員長
小野 泰司
編集人 梅林 真道
定価 1部 20円
半年分 120円
組合員の購読料は組合費含め徴収

組合加入のご相談
や組合に対するご
質問、全教共済に
ついてのご質問は、
高教組本部に気軽
にお問い合わせ下
さい
TEL 078-341-6745
FAX 078-351-3185



発言(要旨) 2000万署名の取り組み



岡本匡史中央委員 東播支部

確定署名以上の取り組みをしなければならない。もう出来てしまった法律を廃止させようという取り組みはかなり難しいだろう、というつもりで始めたが、意外と反応はよい。これから家族分、次は外でも署名活動を計画していきたい。

竹中郁夫中央委員 東阪神支部

成人式後の同窓会の場に署名用紙を持って行き、スピーチで戦争法にも触れながら署名の呼びかけを行った。



枋尾一三中央委員 尼崎支部

これから議論を始めるが、まずは分会内での意思統一をしっかりしていきたい。労連等とも連携して、高校生へのアプローチも検討していきたい。



田中博之中央委員 但馬支部

2000万署名の取り組みを年度内に決着を付けるつもりでスタートさせ、既に目標の1割に届いた。まだ職場によって温度差があるが、作戦を立ててじっくり取り組もうという構えも見られる。署名用紙を配って終わり、ではうまくいかない。対話なしでは運動は広がらないし、組織拡大にもつながらない。



島津茂久中央委員 神戸市高

「組合の署名」ではなく「幅広い取り組み」として協力を呼びかけている。呼びかけグッズの「お手紙」も独自に作成して利用している。もう一つの組合ともこの問題では「お互いに協力して頑張ろう」と話は出来る。

